植えてみる

「盆栽」づくり

クルミやドングリを植えてみる

自分たちの手で森づくりをしませんか。

エゾリスは冬のエサのためにクルミを土に埋めておくのですが、食べられなかったものは芽を出して木になります(→p13,21)。エゾリスにならってオニグルミの実を拾い、いくつかは割って食べ、残りを埋めてみましょう。次の年、結構よく芽が出ています。

ヤナギの枝を切り取って土に埋めるのも、簡単な林づくりです。(ただしヤナギは細い葉のものを選びましょう)

オニグルミの実を拾って(左)種を土に埋めておく。右は翌年発芽したオニグルミの木。当たり前だが、オニグルミの実はオニグルミの木の下に落ちている

ヤナギの枝を切って埋めるだけでも、木が育つ

子どもの木で小さな林づくり

子どもの木で「盆栽」づくり。自分の世界を作るうちに、木の持つ雰囲気や特徴が見えてくる

林の中には大きな木から落ちた種が育ち始めた、子どもの木がたくさんあります。

そんな木を掘り出して、植木ばちなどに植えて見ませんか。何本か植えればミニチュアの林ができあがります。

盆栽や箱庭は日本の古くからの文化ですが、それ程力を入れずに、自分の世界を作りましょう。

草の中に埋もれていて、小さいので草とまちがえてしまいますが、別に草でもかまいません。

ただし、命を持っているものです。大切に育てるか、どこかに植え替えてあげましょう。(写真は道立十勝エコロジーパークの自然観察会での様子)

道立十勝エコロジーパーク：十勝川中流域にある、自然と人間との共生の理念を受けとめその実現を目指す公園。道立公園

林の中に出かける。あまり草が茂らないうちのほうが見つけやすい

引き抜かないでスコップを使い、土ごと根を掘り出す

鉢に土を入れ植える。本数や方向、草やコケでのアレンジなど工夫して

苗を作ってから植える

マユミの種取り。木によって実をつける時期、種の熟す時期がちがうので調べてから（「治水の杜ガイドブック」参照）

タネを取り、そのまま植えてもいいですが、風に飛ばされたり鳥や動物に食べられないように、苗を作ってから植える方法もあります。（特に小さなタネの場合）

多くのタネは秋にとれますが、ハルニレなどは６月に、ヤマグワなどは７～８月にタネが熟します。

取ったタネを発泡スチロール箱にまいて育て、少し伸びたらあとで植えやすいようにビニールポットに植え替えておきます。

写真は堤防を林にする「治水の杜づくり」の様子です。（「治水の杜ガイドブック」「森をつくろう 治水の杜づくりハンドブック」参照）

種植え。底にいくつか穴を開けた発泡スチロール箱に土を入れ、果肉取りなどの処理をした種を植える

種植え後。乾燥などを防ぐために砂利をかける。早い木で数週間、遅い木（ヤチダモ）で２年後に発芽

しばらく待つ（半年？１年？育つまで）

生長した苗。野外に放置したままでよい。ただし、５cmほどに生長したところで園芸用のビニールポットへ移植してある

苗を植える。乾燥や他の植物が生えることを防ぐため、表面に砂利などを敷いておき（マルチング）かき分けて植える

治水の杜：治水の杜づくり事業は、堤防に沿って十勝にある木を植樹し河畔林をつくる、帯広開発建設部の事業。これら河畔林は洪水時に氾濫をおさえる他、緑のネットワークを形成し、河川環境の整備と保全にも寄与する。

参考文献

「治水の杜ガイドブック」帯広開発建設部 2002（インターネットで http://www.ob.hkd.mlit.go.jp/hp/tisui/pamphlet/pamphlet.html）

「森をつくろう！治水の杜づくりハンドブック」帯広開発建設部 2000

「住民参加による自然林再生法－生態的混播法の理論と実践」岡村俊邦 （財）石狩川振興財団 1998

「北海道 樹木図鑑」佐藤孝夫 亜璃西社 1990